

## 分類してみよう

**ねらい** 「分ける」ために細かく観察をし、そこから自分なりの基準や視点を見つける。

**時間** 1時間半  
**人数** 2人以上  
**用具** 底の浅いバット（皿）

**場所** どこでも  
**季節** いつでも

### 手順

#### 導入

1. 「分ける」ということについて、日常の事例を取り上げて興味をひきつける。例えば、「今回のグループワークの分け方」や「ゴミの分別の分け方」「『世界が100人の村だったら』という本では人類をどう分けているか」など
2. 最初に、指導者が集めた物を使い、ある基準に沿って「分けてみる」作業の練習をする。
3. 今回対象とする生物を痛めないようにして集めてくる。  
以下のような様々な種類の物でも実施できる。  
・水生生物・石・木の葉っぱ・土壌動物・漂着物

#### 展開

- 1 いくつかの容器を準備し、個人で（あるいはグループで話し合っ）、用意したものをいくつかのグループに分けてみる。
- 2 最初は2つに分けてみる、3つに分けてみる、という準備作業からはじまって、最後には自由な分け方で分けてみる。
- 3 上記の分類が、どんな基準に基づいているのか、きちんと説明できるように、考えを整理する。
- 4 他に分け方がないか考え、同様に分け方を整理する。

#### まとめ

- 発表を聞いて感じた（さらに発見した）視点について話し合ってみる。
- 指導者が分類について詳しくれば、実際には（その生物が）どのような視点で分類されているのか、話をしてもよい。

#### ポイント

参加者の視点を大切にする。「自由に分類する」という活動に「正しい、間違い」という概念はないことを意識する。

